



記念樹を囲んで乾杯



三翠化学の樹 銘板

「三翠化学」のバックナンバーのホームページに掲載と、一〇周年記念樹の移植の報告が行われました。また、本事業の締めくくりとして、会章（シンボルマー

酷暑の候 皆様におかれましてはますますご健勝でござります。平素は同窓会活動にご理解、ご協力賜り誠にありがとうございます。令和五年度総会は、十一月十八日（土）三重大学生物資源学部大会議室にて開

令和五年度総会報告

木村幸信（大25）

令和6年度 総会のお知らせ	
記	
令和6年9月7日(土) 12:30 受付開始	
13:00 ~ 13:30	三翠化学会総会 生物資源学部校舎 216 番教室
14:00 ~ 14:50	三翠同窓会三重県支部総会 生物資源学部 大講義室
15:00 ~ 15:30	三翠同窓会総会 生物資源学部 大講義室
16:00 ~ 17:30	懇親会 三重大学生協 第1食堂
懇親会会費 3,000 円 (予定)	

二〇二四年度の新生から学部のカリキュラム体系が、これまでの四学科体制（資源循環学科、共生環境学科、生物圏生命化学科、海洋生物資源学科）から一学科四コース体制（生物資源総合科学コース、農林環境科学コース、海洋生物資源学コース、生命化学コース）に変更されました。多様化する受験生のニーズに加えて、SDGs や Sustainability、気候変動や異常気象への対応、脱炭素社会やポストコロナのライフスタイルの変容など生物資源に関わる課題など、ますます複雑化する課題の解決に向け、生物資源各要素の専門性とそれらを繋ぐ俯瞰的視点、フーズシステムに関する総合的な知識、

データ駆動型農林水産業やデータサイエンスの素養を備えた人材が必要とされています。そこでこれらに即した各専門分野の育成人数バランスへの柔軟な対応と、分野横断型の教育研究の創出を狙って生物資源学部を一学科とし、専門分野毎のコース制と各コース内に専門領域による専修制を導入しました。そして、何よりも直面する現実的な課題として、国立大学改革によつて毎年のように教員数が減っていくなかでも教育の質を維持するための新たなカリキュラムの構築をめざして新体制がスタートしました。今回、新たな取り組みとして「生物資源総合科学コース」が誕生しました。定員三〇名というコン

学が増えているのも、こういった受験生の要望が増えていることを反映しているのかもしれません。また、生物資源総合科学コースでは、推薦入試にいわゆる地域枠として、三重県・愛知県・和歌山県・奈良県の高校を卒業・卒業見込みの高校生を対象とした「紀伊黒潮枠」を設定しました。これは、紀伊半島を中心とした地域の課題に取り組む意識をもつた人に入學していただく、地域の課題について考える経験をもとに、卒業後はこの地域に限らず、日本ひいては世界の各地域で課題の解決と発展に貢献できる人材を輩出したいという願いが込められています。そのために、一年から二年にかけて希望者には長期休暇を利用した海外研修も計画しています。第一期生となる本年度は多くの学

生が受講を希望しているようです。従来の地域枠は、その地域に卒業後も残り医療や教育に従事することを課していることが一般的でしたので、生物資源学部の紀伊黒潮枠は従来にない新しい取り組みで、この枠で入学した学生の活躍を大いに期待しているところであります。旧農芸化学、生命機能化学が属する。生命化学コースは生物圏生命化学科からは大きな変更はされておらず、生命機能化学専修と海洋生命化学専修の二つの教育ユニットが配置されています。この中の、生命機能化学専修が旧農芸化学、生命機能化学となります。今回の改組は、以前の生命機能化学コースが専修と変更されたことと考えることでほぼ同じです。また、現在の一

く）の制定を公募形式で行うとの提案が行われ満場一致で承認されました。滞りなく総会が締められたあと、旧農学部学生実験室北側に場所を移し、移植された三翠化学の樹の、銘板（石板）の設置式を行いました。更に場所を移し、三重大学生協「ばせお」にて懇親会となりました。残念ながら、本総会への会員出席者は一九名となり、寂しいかぎりでした。一、〇〇〇人以上の会員を持つ三翠化学会がその五十分の一にも満たない会員で「総会」を執り行っている良いものか？ 立て直し

改組に伴う組織変更について

データ駆動型農林水産業やデータサイエンスの素養を備えた人材が必要とされています。そこでこれらに即した各専門分野の育成人数バランスへの柔軟な対応と、分野横断型の教育研究の創出を狙って生物資源学部を一学科とし、専門分野毎のコース制と各コース内に専門領域による専修制を導入しました。そして、何よりも直面する現実的な課題として、国立大学改革によつて毎年のように教員数が減っていくなかでも教育の質を維持するための新たなカリキュラムの構築をめざして新体制がスタートしました。今回、新たな取り組みとして「生物資源総合科学コース」が誕生しました。定員三〇名というコン

学が増えているのも、こういった受験生の要望が増えていることを反映しているのかもしれません。また、生物資源総合科学コースでは、推薦入試にいわゆる地域枠として、三重県・愛知県・和歌山県・奈良県の高校を卒業・卒業見込みの高校生を対象とした「紀伊黒潮枠」を設定しました。これは、紀伊半島を中心とした地域の課題に取り組む意識をもつた人に入學していただく、地域の課題について考える経験をもとに、卒業後はこの地域に限らず、日本ひいては世界の各地域で課題の解決と発展に貢献できる人材を輩出したいという願いが込められています。そのために、一年から二年にかけて希望者には長期休暇を利用した海外研修も計画しています。第一期生となる本年度は多くの学

学コースの学生が、上記に書いたように各コースへ分属されており、二年生の段階で、五名がコースに分属され、その後、数名がさらに専修へ分属される予定です。特記すべき事項は、今回の改組で教育ユニットとして、土壌園生生物機能学（旧土壌学・植物栄養学）研究室が教育研究分野として加わりました。教員の組織としての所属はまだ別ですが、学生は旧農芸化学の研究室が全て一つの組織に揃ったこととなります。

会章（シンボルマーク）の制定作業 —進捗ご報告とお願い—

昨年度の総会にて、三翠化学会設立 50 周年記念事業の一つとして、会章（会のしるし・シンボルマーク）を作ろうということが決定されました。今年度5月末を期限として皆さまにデザイン案を募集したところ、23 点の応募作が集まりました。ご応募いただいた皆さま大変ありがとうございました。その中から事務局にて絞り込んだ 10 作品を、この会報を通じて皆さまにご紹介いたします。最終的に1 点に絞り込み、デザイン修正の上でデータ化して完成の運びとする予定です。次回会報にはご披露できるよう運んでいきたいと存じます。つきましては、この 10 作品から1点に絞り込む作業に、皆さまのお力添えをいただきたくお願いします。

①投票

10 点のうち最も会章としてふさわしいと思うものを推薦してください。

原則として多数の支持を得たデザインを会章としたい所存です。

②修正のご提案


このままではどの案も気に入らない、あるいはここを直した方が良いというご提案は極力受け付けます。ただしその案が採用されるか否かはわかりません。極端ですが、全く別のデザインをご提案いただいても結構です。募集期限は過ぎていますが、紹介した 10 点よりはこれのほうが良いというものはぜひご提案ください。

※なお、投票およびご意見は、e-mail にて sns1kgk@gmail.com までいただければ幸いです。

③最終案の決定は事務局にお任せください


皆さまのご意見がどのくらいいただけるのか、どのような趣旨のご意見がいただけるのか現段階ではわかりません。自力で決めきれないときには専門家のアドバイスを受ける可能性もあります。事務局にご一任いただきたくお願いします。

No.1




三重県の地図と三翠の文字を、DNA を象徴する二重らせんで囲む。

No.2




二重らせんで大きく6員環。中には三重県地図と三翠の文字。

No.3




無限記号と二重らせんを融合。シンプルなロゴで三翠化学の DNA よ永遠にという願いを込めて。

No.4



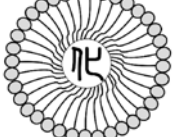
二重らせんを単純化。∞記号を合わせ縦に配置。三翠の DNA は永遠です。

No.5




二重らせんを平面図で放射状の白抜きはミセルをイメージ。三翠の名のもとに団結する集団として。

No.6




ミセルは結束・団結。弁護士バッジをオマージュ。色展開：金色のバッジ

No.7



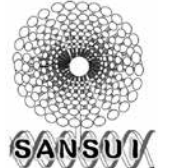
学問が社会に出て水の輪のごとく広がっていく様子を3つの翠の輪で表す。BBA: Bioscience, Biotechnology & Agrochemistry 日本農芸化学会の JSBBA より。カラー展開：3色の緑（水滴部分で4色）

No.8




サッカーボール（ベンゼン環と5員環）が飛んでいくイメージ。ボールは酵母に見立て、出芽が見られる。ややコミカル。

No.9



子葉胞子と二重らせんを大地に生える大樹のイメージに配置。醸造と生物化学を農芸化学の象徴とした。

No.10



三翠（翡翠の勾玉）Bioscience, Biotechnology & Agrochemistry カラー展開は3つの翠。



(題字は稲川先生)
第 73 号
令和 6 年 ● 月 ● 日 発行
三 翠 化 学 会
津市栗真町屋町 1 5 7 7
三重大学大学院生物資源学研究科内
電話 / 〈059〉232 - 1211
振替 / 00890 - 1 - 59345
印刷 / 株式会社 あるむ
TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

第九回三翠化学会 関東支部交流会を開催

関東支部支部長 吉田吉明 (大18)

第九回三翠化学会関東支部交流会を、令和六年四月一日(日) 一時から、日本橋室町の三重テラス・イベントスペースで開催しました。

支部では毎年、総会と交流会を交互に開催していますが、交流会はコロナ禍のため、平成三〇年三月十七日(土)、久松先生による講演「忍者の携帯食」以来六年ぶりの開催でした。

昨年の総会はコロナ禍開けで出席者は一三名の出席でしたが、今交流会は初めての参加される方もおられ、来賓、講師を含めて二一名の方の参加で開催することができました。

来賓として、本部から木村会長において頂き、情勢報告を含め挨拶をお願いしました。昨年は三翠化学会



南は沖縄県まで、全国の有人島(離島)を長年かけて巡っており、風景に加えて島の見所などを、貴重なスライドで紹介していただきました。初めて見る風景が多く、演者ももっと紹介したい島があったようです。が、もう少し時間を取った方が良かったと惜しまれるほど、参加者からは好評でした。離島巡りはまだまだ続くとの本人の談。これからも、皆さんの趣味や仕事への思いなどを語っていただく講演会として企画していきたいと考えていますので、特に登壇を希望される方、歓迎します。

講演会の後、集合写真の撮影、懇親会の場所である「吉倉 日本橋三越前店」に移動し、別所副支部長(大26回)の進行のもと、平田副支部長(大20回)の乾杯の発声で、懇親会が始まりました。

今回は、初めての方が五人参加され、生物資源学部第4回卒業の石井さんに参加いただきました。また、大25回の木村会長が出席されたこともあり、三重から伊藤真さんが参加され、大25回、26回の同期会の雰囲気でした。総会、交流会を活用し、連絡を取り合って同期会を開催することも妙

最後に、今回の交流会の出席者を紹介させていただきます。

木村幸信(三翠化学会会長・大25回)、加藤登美雄(19)、鈴木潔(09)、岡崎直人(14)、高瀬敏(18)、吉田吉明(18)、浅尾由一(19)、東海裕作(19)、西出祐次(19)、平田友良(20)、神田千幸(21)、中島亨(22)、伊藤真(25)、菅原博(26)、津嶋直人(26)、別所明(26)、上野裕史(27)、蛭薙雅美(27)、佐藤郁夫(30)、酒井和好(34)、石井泰成(生4)

大42回生と修29回生の同窓会を、令和五年一〇月二日に名古屋にて開催いたしました。

二〇一四年開催の同窓会より、サッカーワールドカップの開催年(四年に一度)に行うこととし、二〇一八年の前回を経て、本来であれば二〇二二年に開催する予定でした。しかし、コロナウィルスの蔓延などの諸事情のため、次回

小宮孝志先生を偲ぶ

生物機能化学研究室

勝崎裕隆 (大36)

小宮孝志先生は令和五年九月二四日にお亡くなりになりました。

小宮先生は、名古屋大学を昭和四五年に卒業された後、三重大学の農芸化学科の農産製造学研究室の助手として採用されました。その後、助教授、教授と昇進され、平成一六年にご退職されました。その間に、ドイツのミュンヘン工科大学へ留学も経験されており、研究室内も、改組等により、農産物利用学と名前が変わり、定年前の最後の一年だけは新設の食品機

能化学研究室に所属されていました。また、在職中に付属農場の農場長に就任されていたこともありました。

小宮先生の講義の思い出は、私が学生時代受けた、外書講読でした。有機化学のドイツ語の本を使用しながら、ドイツ語の化学を勉強するものでした。多くの学生が、苦しんだ授業だと思えます。この授業の関係がわかりませんが、その後小宮先生は、ドイツへ留学されました。私自身は、化学の研究室に所属してい

ました。その後、小宮先生が研究をされていた、名古屋大学の食品製造化学第一研究室というところへ進学し、学位をいただくまで、平成五年の二月から、当時の、農産物利用学研究室へ助手として赴任しました。それ以降、私は小宮先生が退職されるまで、今井先生を含め、三人で農産物利用学研究室を運営してきました。小宮先生が、退職される一年前に改組で、農産物利用学研究室は生物機能化学研究室となり、新設する形で、小宮先生は一年だけ食品機能化学研究室に所属されました。しかし、学生は元の農産物利用学研究室の場所で行い、

が、さすがに三重大大学健児、冷酒、燗酒を問わず、店の日本酒が無くなる勢い、更に、参加者全員の近況報告、講演内容や大学時代の話題で大いに盛り上がり、予定の二時間の懇親会はあつという間に過ぎました。貸し切り状態だったので、酒井さん(大34回)の発声で「三翠応援歌」を大合唱し、第九回交流会を終えました。

来年は総会の年です。昨年もうそうでしたが、「やつて良かった」との皆さんの声を励みに、三四月の開催に向けて準備を進めていきます。

今回の、初めての方が五人参加され、生物資源学部第4回卒業の石井さんに参加いただきました。また、大25回の木村会長が出席されたこともあり、三重から伊藤真さんが参加され、大25回、26回の同期会の雰囲気でした。総会、交流会を活用し、連絡を取り合って同期会を開催することも妙

この頃は、農場長であったこともあり、農場で取るものを用いた植物を数多くサンプルとして扱っていました。博士課程の学生の指導も行い、課程博士、論文博士を含め何人かの博士も育てられました。小宮先生との実験の思い出は、小宮先生はドイツ帰りもあるのかもしませんが、三角フラスコをコルベンと呼んでいました。はじめ、私や学生もコルベンと聞いて頭の中が？が出ていました。小宮先生が手で三角フラスコを持っているのを見て、三角フラスコがコルベンかとわかりました。調べると、ドイツ語で三角フラスコをコルベンと呼ん

案だと思っていますので、多くの方が参加する機会になればと思っています。

また、今回の交流会の開催にあつて、メールアドレスが特定できる方以外の方には、往復はがきで対応しました。それにより、今後の案内の要否とメールアドレスの再確認を行ないました。参加者以外で約四〇名の方から近況報告が届いたこともあり、来年の総会には今回以上の方の参加を期待しているところです。一緒に、「三翠応援歌」を謳歌しましょう。

最後に、今回の交流会の出席者を紹介させていただきます。

木村幸信(三翠化学会会長・大25回)、加藤登美雄(19)、鈴木潔(09)、岡崎直人(14)、高瀬敏(18)、吉田吉明(18)、浅尾由一(19)、東海裕作(19)、西出祐次(19)、平田友良(20)、神田千幸(21)、中島亨(22)、伊藤真(25)、菅原博(26)、津嶋直人(26)、別所明(26)、上野裕史(27)、蛭薙雅美(27)、佐藤郁夫(30)、酒井和好(34)、石井泰成(生4)

大42回・修29回同窓会

により、一年延期してようやく開催することができました。前回より五年が経過し、皆が五〇代に突入しましたが、ひとたび会えば、学生時代と同じように皆が生き生きとしており、学生時代の昔話から近況に至るまで、楽しく語りあうことができました。

また、今回参加者の半数以上が東京方面からの参加となりましたので、次回は関東地区にて、渡辺さん・橋本さんが幹事として開催する予定となりました。今回えなかつた方々も含めて、次回も皆が元気で会えることを楽しみにしております。

杉浦和彦 (大42)



杉浦和彦 (大42)

茶目な感じが女子大生に映り、学会へ学生を連れて来られるほどの人気があったのではないかと思います。完全に大学関係を離れてからは、さらに他の趣味を始められたようで、年賀状のやりとりだけでなく、年賀状に絵を描いて送ってこれ、最近絵を描いてるんだと書かれてあります。三重大にいた頃は、基が趣味でよく打っておられたと思いますが、完全退職後に

新しい趣味を始められるとは好奇心旺盛な先生だなと思つたことも覚えています。聞くところによると、お亡くなりになる半年前くらいに、骨を折られたそうで、その後、寝たきりになり、亡くなってしまつたそうです。ここよりご冥福をお祈り申し上げます。残された私たちが先生が残してくださった教をこれから肝に銘じて精進していきたいと思ひます。

第二三回三翠化学会
関西支部交流会報告
西本和実（大33）

昭和五九年に第一回総会が開催された三翠化学会関西支部は、平成一三年からは名称を関西支部総会から関西支部交流会に変更し、毎年開催を重ねてきました。途中、コロナ禍の影響で、令和二、三年は開催を見送りましたが、令和四年に、嶋林幸英先生を偲ぶ会として、第二三回関西支部交流会が三年ぶりに開催されました。

第二三回支部交流会は、令和五年十一月一日、ご来賓として三重大学生物資源学部名誉教授の柏村直樹先生、三重大学生物資源学部教授の荻田修一先生（大30）、三翠化学会会長の木村幸信氏（大25）にご出席を賜り、今回もホテルクライトン新大阪にて開催いたしました。



第一部は関西支部総会で。冒頭に物故者に黙祷を捧げました。次いで伊藤支部長（大21）の司会で総会に移りました。まず三翠化学会会長の木村氏よりご挨拶を賜り、三翠化学会本部の現状と各支部の活動状況報告及び、三重県支部と東海支部を統合し、新たに東海支部として改組することを、本年の三翠化学会本部総会で諮る予定とのご説明があり、今後とも活動への支援についてご協力をお願いしたいとお話しを伺いました。その後、伊藤支部長からは令和四、五年度の活動報告、西本会計（大33）の会計報告、古橋会計監査（大19）による会計監査報告が行われ、いずれも満場一致で承認されました。

第二部は恒例の談話会です。今回は、荻田修一先生より、三重大学生物資源学部の現状についてお話しされ、生物資源学部が平成六年度から一学科四コース制に改組されること、生命科学コースの現講座が、かつての農芸化学コースのどの講座に対応するのか説明されました。次に大学で取り組んでこられた研究テーマのお話しをされ、その中で、環境から分離した特徴ある野生酵母の応用の試み、セラーゼ利用によるセルロース分解とその利用の内容が印象に残りました。また、大学構内及び周辺の状況が大きく変わり、木造だった江戸橋が歩車分離されたコンクリート製の立派な橋に架け替えられた写真を紹介され、隔世の感を禁じ得ませんでした。

第三部は懇親会です。柏村先生に乾杯のご発声을いただき、懇親会は開始となりました。いつものように参加者一同、昔話で盛り上がり、お互いの近況を報告しあったりと、和気あいあいとした雰囲気です。懇親会では、来年度の再会を約して交流会はお開きとなりました。末筆になりましたが、ご参加いただきました皆様、支部運営協力費にご協力を賜りました皆様に、誌面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

最後に今回の出席者を紹介し、報告とさせていただきます。

伊藤支部長会務報告
木村会長来賓挨拶
西本幹事会計報告
古橋幹事会計監査報告



伊藤支部長会務報告



木村会長来賓挨拶



西本幹事会計報告



古橋幹事会計監査報告



荻田先生 談話会



小川副支部長議事

山口献三先生をしのぶ

農産製造学研究室

升井洋至（大32）

右手にファイルを抱え、最前列の助手席にいつも着席し、時間厳守の徹底したものでした。実習前の講義では、農場での茶葉の植え付け位置など、実習以外の山口先生のお考えなども教えていただきました。農場での製茶、イチゴジャム、ピワのシロップ煮の缶詰製造等をご指導いただきました。ジャムやピワの下処理中に悪友ともども、果実を口に運びつつ、製造したことを覚えていきます。「食べたら、収量が落ちるよ」と注意をされておられました。

山口献三先生が、二〇二二年七月九日に亡くなられたとの連絡が、同窓会事務局にありました。在職時、私たち卒業生には、ご自身のことをあまり多くを語られることがありませんでした。在学時より、なぞの多き先生でありました。なぜか、口元に煙草を加え、少しずれた老眼鏡の上から、上目で見られる笑顔の印象が強く印象に残っています。三年次の附属農場への農芸化学実習に大学からバスで行く際には、作業着姿、

が、どことなく口元は笑っておられました。小生（升井）が農産製造学研究室に所属した時期は、奈良省三先生のご退官後で、小宮孝志先生と研究室を運営されていた時期でした。卒論、修士の合わせて、三年間同じ研究室で過ごした際の思い出の中に次のことがあります。夜間に蒸留水製造装置の冷却水が漏れ、階下の土壌学研究室が水浸しになることがありましたが、朝、「升井君、下の様子、見てきてくれんか」

謝りに行く前に様子が知りたいから……と言いつつ、行きにくそうに口元に笑みを浮かべながら、言われませんでした。また、同期のI君がウドのポリフェノールの分析試料の調製時に何故か、引火して、カレンダーが燃えました。小生はその事実を知りつつ、翌日に、山口先生が部屋に入ってくるタイミングで、同じ場所にかけてある違うカレンダーを触ると「昨日、ちよつと、いろいろあつてな。エッへ、へ……」と笑っておられました。研究室で飲み会（確か、忘年会と記憶しています）の日に、「今日は、これで帰らなあかん。うちのに言われてる……」と、すぐく照れ笑いしながら、帰宅されました。「……」のところはご家族の良き内容だったと思います。普段、卒論指導では「やらんかったら、知らんよ。卒業できんよ」「いつからやるのかね。どうなっているかね。もう知らんよ」と厳しい言葉がありました。しかし、研究生活の合間での出来事の思い出では、必ず笑いがありました。時折、話されたご家族のことは、ホッとすることばばかりでした。なかなか、ゆつくりとお話をする機会はありませんでした。が、卒論を指導された者は、寡黙な山口先生であつたからこそ、学ぶところが多かったと、今、改めて感じております。諸先輩の方々には、もつと違った良い思い出があると思います。筆を進めるうちにあれこれと、違った思い出が浮かんできます。小生のとめどもない思い出話ですが、現在の小生の研究生活における学生指導での糧となっております。

山口献三先生のご冥福を心からお祈りいたします。
（武庫川女子大学
食創造科学科 教授）



第 24 回三翠化学会 関西支部交流会のご案内

日時：令和6年11月2日(土) 午前11時から
場所：ホテルクライトン新大阪
談話会特別講師（予定）

三重大学生物資源学部 稲垣 穂 教 授（生理活性化学研究室）
増田裕一 准教授（創薬化学研究室）

今回は、生理活性化学研究室、創薬化学研究室、この2つの研究部の起源である農薬化学研究部の同門会的な集まりを兼ねております。最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

● 訃報 ●			
福田 映	元会長	令和5年10月11日	逝去
前田 巖	先 生	令和5年10月21日	逝去
田口 寛	先 生	令和6年4月25日	逝去

● 令和5年度 卒業生就職・進路先 ●

朝日インテック株式会社
天野エンザイム株式会社
アピ株式会社
アンズコーポレーション
一宮市役所
伊那食品工業株式会社
井村屋株式会社
キヤノン株式会社
株式会社京樽
熊野市役所
倉敷紡績株式会社
経済産業省
一般財団法人材料科学技術振興財団
三昌物産株式会社
一般財団法人食品分析開発センター
SUNATEC
太陽化学株式会社
中外医薬生産株式会社
辻製油株式会社
株式会社東海テクノ
株式会社東ソー分析センター
東邦ガス株式会社
名古屋国税局
日鉄ソリューションズ中部株式会社

株式会社ニッポン
日本コーンスターチ株式会社
一般財団法人日本食品分析センター
農林水産省
株式会社浜乙女
株式会社はま寿司
ヒューマンアカデミー株式会社
株式会社ドンク
株式会社マスヤ
三重県教育委員会
御木本製薬株式会社
三井住友海上火災保険株式会社

株式会社メニコンネクト
山添村役場
ヤマモリ株式会社
株式会社 ATGS
KH ネオケム株式会社
NISSHA 株式会社
OAT アグリオ株式会社
OCI 株式会社
TIS 株式会社
WDB 株式会社 エウレカ社

（順不動）

東海支部報告

東海支部は、前号で報告の通り支部規約をあらたに策定し直し、新生東海支部として再スタートすることになりました。

規約は別掲の通りです。規約としても大仰な取り決めは一切なく、簡易で軽量なものです。入退会の自由度を最大限大きくすると、連絡業務に経費を極力かけないこと、会計が明朗であることのみ留意したものです。

支部が役割として担う最も大切なことは、「報連相」を充実させることだと思います。ひとむかし前であれば、連絡にも多大な通信費（例えばはがき一枚の通信にしても）の出費が当然であったところ、今では

ほとんど経費をかけずに連絡しあえる手段（メール）がすでにあります。また実際に会って話し合う場合も設定してあるわけで、あとは（これが一番大切かつ難しい！）入会の意思表示を多くの会員候補の皆様にしていただき、本会からのメール連絡を受けていただければ、かにかつてくると思いますが、まずは同窓会の連絡網の一つを、あなたの手でつなげていただく意味で、ぜひ東海支部への入会をお願いします。ご入会いただける方は左記メールアドレスまでご連絡をお願いします。

sansuikakai@gmail.com

● 三翠化学会 東海支部規約 ●

- 第1条 本会は、三翠化学会東海支部と称する。
- 第2条 本会の事務所は、支部長宅とする。
- 第3条 本会の会員は、愛知・岐阜・静岡・三重県内に主に居住または勤務する者及び本会の趣旨に賛同する三翠化学会員とする。
- 第4条 本会は、会員相互の親睦を深めるとともに、三翠化学会の発展と結束強化に資することを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 会員相互の連携と情報交換に資するための懇親会
- 2 その他必要な事業
- 第6条 本会に、次の役員をおく。役員の任期は1年とし再任を妨げない。
- 1 支部長 1名
- 2 会 計 1名
- 3 監 事 1名
- 各役員の役割は次のとおりとする
- 1 支部長は会務を総括する
- 2 会計は本会の会計を掌握する
- 3 監事は本会の会計を監査する
- 支部長は前任者からの指名を受諾することで決定する。それが叶わない場合には速やかに懇親会を開催し、出席者の過半数の賛同をもって決定する。会計は支部長が委嘱する。監事は三翠化学会会長または三翠化学会会長が指名した者に委嘱する。
- 第7条 本会は、次の会合を行う
- 1 総 会 年1回行う
- 2 懇親会 年間3回開催を原則とする。
- 3 役員会 随時 必要に応じ開催する。
- 第8条 本会の経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。
- 1 会費は、事業の都度必要に応じて徴収することができる。
- 2 会計は年1回監事に会計報告を行い、監事はその内容を監査する。
- 3 年度ごとの会計報告は省略されるが、会員から開示請求を受けたとき、本会の会計は次期会合で開示されなければならない。

- 附 則 1 すでに組織された三翠化学会関係のそれぞれの組織については、相互補完の関係維持に努める。

● 三翠化学会 東海支部規約(内規) ●

- (入退会)
- 第1条 入退会は自由とする
- ①入会希望者は電子メールアドレス他、必要事項を事務局に届け出ること入会したものとす。
- ②入会希望者は、会員の紹介により初回会合に参加することができる。
- ③退会希望者は事務局に届け出ること退会したものとみなす。
- (連絡・通知)
- 第2条 連絡・通知は電子メールを持って行う
- 2 やむをえぬ場合、電話連絡やその他手段を用い、連絡・通知手段とすることもある
- (総会)
- 第3条 三翠化学会総会開催時に行うこととするが、規約改定など特段の議事がない場合は省略されることもある

30 回同期会の開催

6月8日(土)に大阪地下鉄御堂筋線緑地公園駅に集合して、大変お世話になった担任の熊澤先生のお墓に参り、それぞれが手を合わせ、現状を報告した。その後、新大阪に出て、再会を祝して中華料理で宴会を行なった。今回、相場と、遠く山口県から、浅野が参加してくれて、時を超えた久々の再会に話が弾んだ。相場と浅野は所用のため宴会の後に分かれ、残りのメンバーで京都へ移動、宿泊し、夜遅くまでワイワイしながら、昔話に花が咲いた。翌日、菖蒲園が見頃な平安神宮と、南禅寺を散策して、京都駅前のビアホールで、次回の再会を約束して再び乾杯した。今回は、幹事長小川、幹事北村で企画運営を担当し、参加者は、岩崎、内田、大野、苅田、北川、羽多、山田(敬称略)で、次回は、東海か、関東のメンバーで、企画をお願いすることになった。

苅田修一 (大 30)



第 35 期 同窓会



コロナ禍の収束・緩和が見えない状況の中で令和4年に男性7名でのプチ同窓会を開催し、2年後の還暦同総会に向けて動き始めました。そして、令和5年9月30日(土)愛知県徳川園内の宝善亭でプレ同窓会を開催しました。男性9名・女性6名の計15名参加で、懐かしい思い出話に花を咲かせたりお互いの近況を報告し合ったりし、心に響く時間が流れ、閉会後も別れがたく会場のいたるところで立ち話が続きしました。笑顔・笑顔の「第35期同窓会」でした。

令和6年は、待ちに待った還暦同窓会です。「第35期」全員が参加できればと願っています。お会いできることを楽しみにしています。 中浦守浩 (大 35)

皆様からのご厚志は随時承っています。

金額の多寡にかかわらず喜んで頂戴いたします。

- ・郵便局よりの振込には、表紙題字の下に記載の振替口座番号宛お振込みください。
- ・銀行やコンビニ ATM 等からでも振込は可能です。

その際は、使用可能な銀行キャッシュカードをご使用いただき、

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900 店名：089 店（ゼロハチキュウ店）

預金種目：当座 口座番号：0059345

令和5年度 卒論タイトル (紀要掲載可分のみ)

- ・セルロース分解性嫌気性菌 *Ruminiclostridium josui* における分子育種用ベクターの開発
- ・収穫前後の農作物のマルチバンド光センシングに関する研究
- ・*Paenibacillus xylaniclasticus* 由来キシラナーゼ Xyn11C の酵素特性
- ・異なる施肥条件で生育された米の理化学的特性
- ・イネの遺伝子欠損変異体 sqd2.1 および sqd2.2 の二重変異体作成
- ・クロラムフェニコールを母体薬剤とした皮膚透過性向上法の探索
- ・高周波照射された糖水溶液の赤外分光特性
- ・卵巣摘出マウスにおける EGC の作用について
- ・尾鷲市で栽培した川野夏橙の収穫時期、貯蔵方法の違いによる苦味成分の比較
- ・*Clostridium paraputrificum* の多様性と M21 株の特徴に関する研究
- ・ノコギリモク *Sargassum macrocarpum* から単離された化合物の構造解析
- ・*Clostridium paraputrificum* の N-アセチルグルコサミン資化とその制御に関する研究
- ・大腸菌 C 株のリボ多糖外部コア糖鎖を模倣した部分構造三糖の合成
- ・抗菌環状ペプチド curacomycin 類の構造活性相関研究—β-ヒドロキシアスパラギン残基の機能解明
- ・BSES 法における Cel9R の添加効果
- ・抗菌活性環状デブシペプチド Hypeptin に含まれる β-ヒドロキシアスパラギンの合成
- ・抗糖化、抗酸化作用を併せ持つ食品の探索
- ・*Clostridium paraputrificum* のキチン分解酵素の遺伝学的な解析
- ・Orbitrap LC-MS を用いた精密質量と MSMS によるゴマリグナン類の特異的分析法の開発
- ・EGCg による酸化ストレスを介した細胞融合作用に関する研究
- ・小豆抽出物の分画と機能性成分の探索
- ・大腸菌コールドショック発現系におけるタンパク質の自動発現誘導
- ・蛍光顕微鏡 BZ-X800、ImageJ を使用した HEK293 細胞を用いたカルシウムイメージングによる TRPV1 活性測定の解析法の確立
- ・*Paenibacillus xylaniclasticus* TW1 株由来エンドグルカナーゼの相乗効果
- ・塩化銅で誘導されるソルガムの代謝プロファイル変化に関する研究
- ・強力な細胞障害活性を示すアセトゲニン類 squamocin の分子プローブの合成
- ・ピペコリン酸側鎖に水酸基を持つ PF1171F の合成
- ・Caffeic acid を部分構造に持つ γ-oryzanol 類縁体の標準物質の合成
- ・イロハモミジ葉抽出物の抗酸化作用の検討
- ・豚肉の低温加熱調理特性の把握
- ・抗酸化作用に着目した小豆味噌の機能性の探索
- ・小豆抽出物の成分分析と抗酸化および抗炎症作用の検討
- ・マルチバンド分光情報に基づいたイオン成分の異なる水を用いた昆布だしの特性把握